

発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市城東区東中浜二丁目十の十三  
一九八四年八月二十日第三種郵便物認可 毎日発行 領価百円

緑橋グリーンハイツ1F アド企画

# KSKP

## 障害者情報クラブニュース15

### ★交通バリアフリー法関連の

#### 講演会をおこないます

代表幹事 坂上 正司

から策定に入る予定だそうですが、「今まで遅れてきたのは、『こういう自治体を中心とした地域主体の計画推進に自治体自体がなれないない問題があります。そして、宝塚市は旧態依然としたコンサルタント丸投げスタイルで基本構想策定に入るつもりでいます。

「法」ですが、私たちの生活の中でどれだけ影響が出てきているでしょうか。目に見える形で大きく変化したところは実感としてあまり感じられないというのが皆さんの共通の思いでしょう。

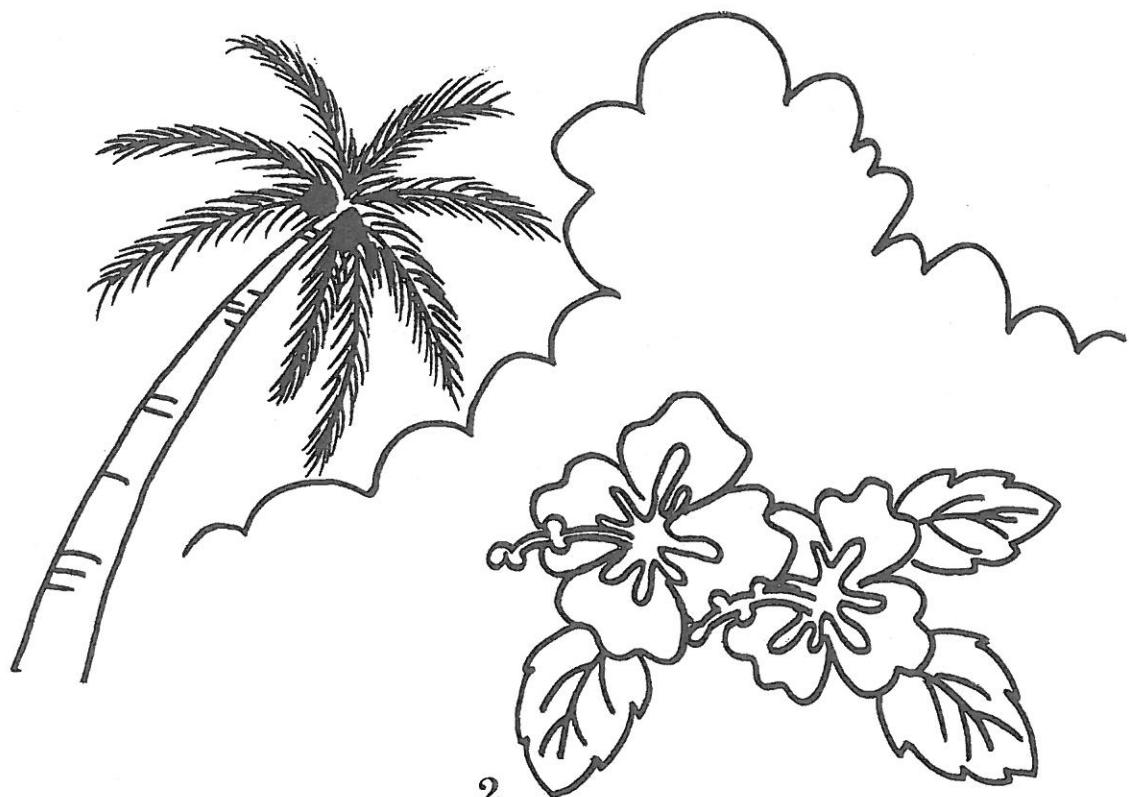
特に動きが見るのは、自治体が作成する基本構想、それに基づく重点整備地区指定ができていないことがあります。宝塚市では秋

とき	2001年9月15日(土・敬老の日)
ところ	宝塚市立女性センター(ソリオ宝塚2)
テーマ	「交通バリアフリー法の意義と市民の役割」(仮題) ~JR宝塚駅の橋上化をめざして~
講師	未定
資料代	500円
問い合わせ	障害者情報クラブ・ILセンター

7月

- 04 水 訪問 おしゃべりサロンへバザー協力  
依頼：中山、光森  
参加 宝塚市立宝塚中学校トライやる  
ウイーク報告会：  
坂上、中山、堀口、光森、石川 【IL】  
07 土 会議 役員会  
  
参加 定藤記念福祉研究会・シンポジウム  
09月 参加 宝塚市障害者自立生活支援センタ  
一運営委員会・打合せ@坂上宅：井上、  
坂上、事務局  
11 水 参加 第11回宝塚市障害者自立生活  
支援センター運営委員会  
@宝塚市総合福祉センター  
12 木 参加 JR宝塚駅橋上化推進協議会・  
役員会@ユニバール会議室  
13 金 会議 仕事のミーティング 【IL】  
19 木 会議 スタッフ・ミーティング 【IL】  
参加 ピア・カウンセリング長期講座  
(広島) 1/5 : 堀口

- 20 金 参加 ピア・カウンセリング長期講座  
(広島) 2/5 : 堀口  
21 土 事業●レク企画：第5回ボウリング大会  
@川西ラウンド1  
参加 ピア・カウンセリング長期講座  
(広島) 3/5 : 堀口  
22 日 講師 三田市立後川小学校講演会：中山  
参加 ピア・カウンセリング長期講座  
(広島) 4/5 : 堀口  
23 月 参加 ピア・カウンセリング長期講座  
(広島) 5/5 : 堀口  
29 日 参議院議員選挙投票日  
参加 兵庫自立生活センター協議会  
(H I L)準備会・勉強会  
「ヘルパー受託について」  
光岡氏(自立生活センター・米子)  
@姫路自治会館  
参加 バリアフリー社会を実現する会  
31 火 会議 ILセンター運営委員会 【IL】



## 事業予定

8月

- 01 水 ILセンター開所記念日 (1997年~)  
02 木 会議 スタッフ・ミーティング 【IL】  
03 金 参加 D P I ・ワールドカップサッカー  
会場アクセスチェック  
04 土 会議 役員会  
13月~16木 休所●ILセンター盆休み 【IL】  
17金 連絡 障害者情報クラブだより8・9・  
10月合併号発行(シンポジウム案内)  
22水 参加●宝塚まつりサマー・フェスティバル・チャリティ・バザー@阪神競馬場  
【IL】  
23木 参加 バリアフリー社会を実現する会  
28火 事業 ハンドブック取材:キリンビール  
神戸工場 【IL】  
会議 ILセンター運営委員会 【IL】  
29水 参加 JR宝塚駅橋上化推進協議会・役  
員会@ユニベール会議室

## 事業報告

6月

- 01 金 会議 役員会  
04 月 トライやるウィーク  
(宝塚市立宝塚中学校) 【IL】  
事業 ハンドブック取材:中山寺 【IL】  
05 火 トライやるウィーク  
(宝塚市立宝塚中学校) 【IL】  
事業 ハンドブック取材:  
アステ川西 【IL】  
06 水 トライやるウィーク  
(宝塚市立宝塚中学校) 【IL】  
08 金 トライやるウィーク  
(宝塚市立宝塚中学校) 【IL】  
参加 関西障害者定期刊行物協会総会  
@アピオ大阪

- 09 土 参加 2003年を考える実行委員会・  
講演会『2003年どうなる障害者の自立?  
「支援費支給方式と障害者の自立』】  
@西宮市役所東館ホール  
10 日 後援 宝塚市身体障害者福祉団体連合会  
主催「身体障害者福祉大会」  
@宝塚市総合福祉センター  
11 月 連絡 障害者情報クラブだより6・7月  
合併号発行(ボウリング案内、シ  
ンポジウム案内)  
13 水 来訪 (有)コラボねっと  
14 木 会議 スタッフ・ミーティング 【IL】  
15 金 参加 JR中山寺駅バリアフリー化  
意見交換会  
20 水 講師 神戸医療福祉専門学校中央校・  
介護福祉士科1年障害福祉論  
講義:坂上  
21 木 事業 ハンドブック取材:宝塚ファミ  
リーランド 【IL】  
23 土 参加 JR宝塚駅橋上化推進協議会・  
総会@宝塚ワシントンホテル  
24 日 参加 D P I 日本会議シンポジウム  
@名古屋市昭和区役所ホール  
25 月 来訪 宝塚市立宝塚中学校宮澤校長  
【IL】  
26 火 会議 ILセンター運営委員会 【IL】  
参加 兵庫県福祉のまちづくり条例改正  
(案)に対するパブリックコメント提出  
28 木 講師 神戸医療福祉専門学校中央校・  
医療福祉士科2年障害福祉論講義:坂上  
参加 バリアフリー社会を実現する会  
@メインストリーム協会

★おおきなうねり

代表幹事 坂上正司

ハンセン病国家賠償判決と政府声明

一〇〇一年五月十一日は、障害者運動史上、日本憲法史に残る歴史的な日になりました。もちろんハンセン病訴訟・西日本訴訟の熊本地裁判決のことです。ハンセン病は障害者問題とは別だと主張する方もおられるでしょうが、差別の本質を考えるとその主張はむしろ滑稽なものに成り下がるでしょう。私たち障害者は、ハンセン病も自分たちの問題としてしっかりと受け止めなければなりません。

およそ一世紀にわたりて近代日本国家によつておこなわれてきたハンセン病者隔離＝撲滅政策が、「憲法違反」として、断罪されたのです。「こ」まではよかつたのです。この後、政府が控訴の動きを見せ、それに対抗して控訴を断念させる運動が展開され、やつとの思いで控訴断念に追い込んだと思ったら、小泉内閣はこともあろうに政府声明という形で熊本地裁判決を無効化する行動に出たのです。法学者に言わせるところ、「三権分立を脅かす」「裁判官の独立を脅かす」政府声明だそうです。亞細亞大学の石崎学さんによると「このようないい政府の行為は、明らかに憲法七六条三項で保障されている裁判官の独立を侵害する行為である。裁判官の独立とは、憲法が定めるとおり、個々の事件を扱う裁判官は、「良心」と憲法以下の法律のみにしたがつて裁判をするという職権の独立を意味する。これは、司法権の独立の要となるものであり、これなくしては、司法権の独立は、その実質的な存在理由を失う」そうです。石崎さんは、「『政府声明』は、このように、おそらく日本近代史上最悪の「裁判官の独立」侵害事件である」と断罪しています。

小泉内閣は、優生保護法「改正」や、「これから行われる「社会福祉基礎構造改革」にいろいろな問題への真摯な反省に立つていて」というよりも、国のメンツや体面を守り通すためだけだとしか考えられません。福祉や医療の政策の改革を議論するより、まず自分たちがどれだけの人間を苦しめてきたか、が問われるべきでしょう。

**無年金障害者一斉提訴** 坂上 正司

国のメンツといえば、ハンセン病政府声明に加え無年金障害者問題も同じなのかもしれません。

あくまで未加入だったことを理由に支給を拒否しつづけている政府は、人権救済よりも年金制度の建前を強調し、個人の生活には目を向かない態度を改めないです。今回の提訴は、アピールの効果が多少なりともあるということで学生無年金の方たちだけのようですが、本質的な問題を考えるとき学生であろうがそうでなかろうが変わることはありません。

負ける可能性がない運動としての展開と、負ける可能性がある裁判のうち、裁判を選んだ方たちの選択を私たちは責めることはできません。負けることができない裁判だからこそ、みんなで応援していかなければならないでしょう。

であつても「治療」として正当化されるという構造があるのでないでしょうか。

★最高…

## 情報クラブ「ボウリング大会」…

古谷かおり

この七月二十一日に企画されている、障害者情報クラブ「ボウリング大会」に、私は残念ながら残念ながら参加できなくなってしまった。前回の「ボウリング大会」から、「今度も絶対、参加したい」と心に決めていたし、今回のお知らせが来てからも、やる気満々だったのに…、都合で行けなくなってしまった。何故、こんなに残念がっているのかというと、前回、参加した時に、脳性マヒ一種一級のアーティザン型で手が使えない私が、スポーツ（…）をやって、周りの人から「カツコイイ！」などと言われたのだから。

参加したのは前回が初めてだった。一般的のボーリング場へ行くのも子供の頃以来。下の階にはゲームセンターなどもあり、流行の曲が流れ、若者たちが集い、時折「キャー」という歓声が聞こえる…、騒がしい雰囲気さえある。CMで

も派手に宣伝されている、「ラウンドワン」に行くことができて良かったが、それ以上に嬉しかったのは、私たちが利用するレーンに一台ずつ、ボールを転がせる「マシーン（？）」が用意されたことだった。車椅子に乗っている高さからボールを押せば、斜めになっているマシーンを伝つて、一般的のレーンに転がっていく仕組みになつている。

私が入所している授産施設カトリアの園でも、一時期、活動の中にボウリングを取り入れていた時期があつたし、あるスポーツセンターデモ、大型のマシーンを利用する」とはあつた。でも、それは大きくて重いので、ボールを転がす前に、私は足を使って微妙な角度を変えたいのに、扱い難い物だった。それに比べて、情報クラブのマシーンは小型で軽く、自分の足で動かして、ボウリングのピンに狙いをつけるのに最高のものだった（これを作ったのは誰か知りたいです）。

おかげで、一ゲーム中はとにかくたくさんのピンを倒すことができ、自分に「うううう」と素質があつたのか…？と気持ちが良かった。そして、総合一位になれ、まるでヒロイン気分で帰ることができた。その日は、早起きして出掛けた甲斐があった。

今思えば、彼が死んでからもう三年以上経つ。彼と過ごした時間より、彼を喪つてからの時間が長くなつてしまつた。

Sさんは、僕が初めて介助者として関わった身体障害者だ。大学のある三田市という地方都市において、Sさんは初めて地域での身体障害者の自立生活を成し遂げた人だ。二十歳で進行性筋ジストロフィーを発病し、それから約十五年を病院において過ごした。そして、彼は念願の地域での自立生活を初め、スタートわずか二年間で三八歳の人生を終えた。

彼との出会いは、僕という人間に大きな影響を与えた。それまで引っ越し思案で大人しかつた僕は、介助の時には深夜まで、人生は何か、これから自分達はどう生きていくのか、飽きることなく話しこんだ。彼は、介助の相手である

やっぱり、スポーツは、観るより、する方が、気持ちいい！



松尾 幸樹

と同時に、僕の人生の先生だった。

彼が亡くなつて、初めて「この世の中を少しでも自分で変えて行きたい」と願うようになつた。自由に生きたいと願う人間が、障害者とうだけで可能性を否定されていかなければならぬだけでも、強い憤りを感じた。

結果として、学生時代のほぼ全ての時間を、僕は介助者であることをやめなかつた。「この社会といふものを、少しでも変化させていきたい、そして担いたいという気持ちがあつたからだらう。

あともう少しで、僕は学生時代の生活を終え、一般企業への就職をするつもりだ。介助者としては勿論、福祉に携わる機会も殆ど持つことはないようと思つ。

これから的人生において、学生時代のこの経験はどのような意味を持つのだろうか。若いが故の安っぽい正義感の現れだったのだろうか、それとも人間としての誇りを作り上げて来たのだろうか。

未だにその答えは出ない。でも、この時代の中で、自分が誇りを持ち、心を裏切らず時を過ごして来れた、そしてその中で素晴らしい人達との出会いを繰り返した」とは、本当に幸福だったと思つ。

結局、のさんが亡くなつてからまだきちんと

した墓参りに行つていない。行かなかつたのではない、行けなかつたのだ。自分という人間に胸を張れる日までそれはお預けだ。恥ずかしくて会えるわけがない。

でも、学生時代の最後の思い出は、彼の墓前と決めている。未熟で愚かな自分の時間を締めくくる上で、人生の先生に不肖の弟子として、精一杯の報告をしたいと思つていて。

の皆さんから、「障害者の活動を少しでも理解してもらえるプログラム作りをしました」と説明がありました。生徒たちが体験した四日間の感想文を読んでやってください。

## 宝塚中学校二年生

トライやる・ワイーク 感想文  
題「トライやる・ワイークを終えて」

二年二組 丸茂 喬

私はトライやる・ワイークで二ヶ所の事業所に行きました。それは休日メニューはあるからなんんですけど…。その休日メニューは「トライセンター」という福祉の仕事です。はじめは少しイヤだったけどみなさんとても明るい人ばかりで、

最後の日には「トライセンターでよかつたと思えました」。

ふだん学校では出来ない事や、やつてみたい事を一週間学校を離れ体験します。そして地域や職場から、たくさん仕事を学びます。  
二〇〇一年六月四、五、六、八日の四日間、男子三名、女子一名の四人の生徒が障害者情報クラブトライセンターにお世話をなりました。初めての所に行く生徒たちも緊張しているでしょうが、受け入れてくださる、センターのスタッフ

## 地域に学ぶ

### 中学生体験活動週間

#### トライやる・ワイーク

宝塚中学校二年生がトライしました。

ふだん学校では出来ない事や、やつてみたい事を一週間学校を離れ体験します。そして地域や職場から、たくさん仕事を学びます。  
未だにその答えは出ない。でも、この時代の電車で中山寺までいきました。車いすでは電車に乗るのも大変で駅員さんにたのんで車いすで電車にすぐ乗れるようにしてもらつたり…。大きな分電車賃は普通の半分です。もちろんその人達といつしょに行く人も半額だから私達も半額です。中山寺に行つてもすぐに私達のよう

上には行けません。たくさんの階段を上しゃべー



ターで登ほらなくてはいけないです。またこれもその人にたのみます。上に行くとみんながいなくなつてびっくり。わたしと電動車いすに乗つている方はみんなをさがしていたけど見つからないのでおまいりをしました。したといつても私が二人分したんですけど その方はとても喜んでくれてうれしかつたです。そんなことをしているうちにみんなが見つかってやつとお弁当。その後は車いすに乗つてみたりととても楽しかつたです。「」で学んだのは車いすのこと。車いすの前輪は小さいので(手動の

車いす) 30㌢の段があつたら乗つている人が飛んでいつてしまします。あと坂は必ず後ろから。それにターンなどをする時はその人が「わがらないよう」「ターンしますよ。」などと言つてあげなければいけません。車いすを動かすのには少し勉強してからじやないと いけないなあと思いました。「日田は「ピーパーしたプリントをまとめたりしました。あとお昼」はんを車いすの人と買いに行つたり…。とつても楽ししかつたです。」日田はほとんど仕事ではなく お菓子を食べたりしながらおしゃべりをしました。みなさんとも楽しそうで私は反対に元気をもらつた氣分でした。福祉という仕事はたいへんだけどやる価値がある仕事だと思います。こういう機会があればまた参加したいです。

#### 題「ト」「ハイやるワーキークで学んだ」と

二年一組 神尾 直人

「一日間」「センターに行つて働いて来ました。」日田は、中山寺に行きました。行く前に、車いすの使い方のビデオを見ました。ぼくは黒田さんという人を乗せていました。思つたよりむずかしくて黒田さんをよわせてしましました。とつてもたいへんでした。「日田は「」で仕事をしました。お昼」はんを買いに行つ

たけど店の通路がせまくて車いすがうまく通れなかつたです。お店はたくさん不便などいろいろあるんだなと思いました。いい経験ができてよかったです。

#### 題「」センターに行つて

二年五組 藤本 洋右

ぼくは「」センター行つてとても勉強になつたと思います。とくに車いすに乗つて車に乗つたり車いすでデパートの中をいろいろ回つたりして、とくに車いすに乗つたまま車に乗ることと、デパートのエレベーターやほしい道を車いすを押して行つたりす」「くしんどかつたです。車いすに乗つたまま車に乗るとぶだん車に乗る目線よりもたかくて、よくやれるのだけつ」「うきもちわるくなります。」日田はしおりを「〇たばぐらじつくてす」「く日とかが つかれました。そのあとはパソコンでいろいろしらべたりして、「す」「くたのしかつたです。 みじかい間だったけど」「くおもしろかつた」「日田でした。またこいつら きかいがあればもう一回やりたいです。

## 題「Iセンターにいった」

二年五組 小泉 葉津貴

ぼくの事業所の休日メニューがあつたのでIセンターに行くことになりました。行ってみればまるで見えているかのような目が不自由な人、全く聞こえているような耳の不自由な人いろんな人がいました。ぼくがびっくりしたのは耳が不自由なのにぼくらが話をしていることが聞くこえているようにぼくらの口の動きを見て話をしてくれます。一日目は、車いす体験でした。始めは藤本君が車いすにのっていました。車に車いすがのると意外にやれるので、車いすがほしい人はぜつたいによつと思います。車からおりると思つたよりも入れない道や通れない道もありました。エレベーターなんかは三往復もしました。

心中で「大変なんだな」と思いました。

二日目は印刷の仕事をしたあとにパソコンをさわりました。目の不自由な人ように、音声機能がついていたのでびっくりしました。そして最後の時となつてきました。本当にいろいろな体験をさしてもらいました。ほとんど知らない事ばかりです「く勉強になりました。また会つことがあります」とがあればあいたいです。

Iセンターのスタッフの皆さん大変お世話になりました。日頃、私たちが何の支障もないと思って生活している中にも、様々な障害物があるという事が、今回の体験活動を通して、生徒たちも感じた事でしょう、とても有意義な四日間でした。来年の二年生もよろしくお願ひします。生徒たちでお役に立つ事があれば、お声をかけてください。

私が体験ルームに入った時は一人だけのんびりと好きなように使っていました。一ヶ月ほど経つてから、隣の部屋に、韓国からの留学生ソウ・ミンスさんが入つて來ました。

何もかにもミンスさんと相談して使わなければならなくなりました。お風呂も時間を分けて入るようにしました。  
一番ややこしかつたのが市役所に行って制度を受けることでした。何回も同じ所を行つたり来たりして疲れました。

そうして過ごしている間に三ヶ月が経ちました。そろそろ自分の家が借りたくなつて来ました。住宅の本とかも毎週のように買いました。不動産屋にも何回も行きました。だけど自分の気に入る物件はなかなか見つかりませんでした。十二月になつてしまい早く出ないといけなくなつてしまいました。そこで、メインストリーム協会の人になり合いの不動産屋さんを紹介してもらい、私の条件に合つ物件を探してもらいました。そこは保育所の前という安全な地区で、私は、一月に西宮市に賃貸住宅を借りて一人暮らしを始めました。そこでの体験談を少しう書きします。

話は、昨年の七月にさかのぼります。私は、

## 私の一人暮らし

宝塚中学 トライヤー・ウイーク

指導ボランティア 光森千早

土井 克哉

はんしん自立の家を出てメインストリーム協会の自立体験ルームに入りました。それまでは、入つたら何とか暮らしていけると思つていました。それが、「いざ、暮らし始めてみると分からぬ事ばかりで、アーティストに迷惑をかけた」と思います。

私が体験ルームに入った時は一人だけのんびりと好きなように使っていました。一ヶ月ほど経つてから、隣の部屋に、韓国からの留学生ソウ・ミンスさんが入つて來ました。何もかにもミンスさんと相談して使わなければならなくなりました。お風呂も時間を分けて入るようにしました。  
一番ややこしかつたのが市役所に行って制度を受けることでした。何回も同じ所を行つたり来たりして疲れました。

そうして過ごしている間に三ヶ月が経ちました。そろそろ自分の家が借りたくなつて来ました。住宅の本とかも毎週のように買いました。不動産屋にも何回も行きました。だけど自分の気に入る物件はなかなか見つかりませんでした。十二月になつてしまい早く出ないといけなくなつてしまいました。そこで、メインストリーム協会の人になり合いの不動産屋さんを紹介してもらい、私の条件に合つ物件を探してもらいました。そこは保育所の前という安全な地区で、

家も新しい方でした。

知り合いの人の実家が工務店を経営しているので家の改造を頼み使いやすくてもらいました。家賃は七万円と少し高いのですが、自分の条件に一番近い所なので決めました。元の間取りは、台所と二つの和室でした。(もちろんバストイレ付き)そこで、私は一つの和室を全部フローリングに替えて、もう一つの、部屋の床の高さを車椅子の高さまで上げてもらいました。

そうすることで、自分で車いすの乗り降りができるからです。

今は自分がしたいことをして暮らしています。私は一人暮らしを始めたことに悔いはありません。

今後も多くの障害者が一人暮らしをする」とを応援していくたいと思っています。

## 社会へGO!

飯塚 博子

各地の自立生活センターを始め、さまざまな障害者団体やその他、色々な人達が「障害者の社会参加」を訴えかけて久しい。当事者だからかも知れないが、その言葉はよく耳にする。



そう言う「障害者の社会参加」とは、具体的にどう言うことを言うのだろう?一般的には、外出(映画鑑賞やテーマパークや飲食を楽しむ)旅行(海外を含む)をしたり、色んな集会に出たり、あるいは今、話題になっている乙武クンのようにベストセラーになる本を書き、メディアに取り上げられ、まるでタレントの「ことくマスコミで活躍する。そう言うイメージがあるようだ。

確かに色々な場所へ公共交通機関を利用して出かけて行くのも、海外へ飛び出すのも、マスクミに顔を出すのも、立派な社会参加だろ。ただそう言う際立つて、目立つことだけが、障害者の社会参加なのだろうか。もう少し地道な、そして身近なことで、どんどん社会参加できるチャンスがあると、私は思う。たとえば、自分の住んでいる町内の自治会の算まりに出席してみるとか。

勿論、すべての医療従事者がと言う訳では決してなく、それまでの障害者に接した経験の頻度や本人の人間性、さまざまな障害に関する認識や感覚に個人差はあり一概には言えない。つまりはたとえ医療従事者であっても、一般人と何ら変わらず障害者に対して理解が深い人もいれば、そうでない人も大勢いると言つ事である。

だからこそ、医療機関へ行く時が私達の社会参加の機会なのである。

ただどこの医療機関でも「障害者」と書いて

もっと手軽に同じ集合住宅の住人の人たちとエレベーターや廊下で、あるいは道ですれ違った時、挨拶をする。そんな「く日常的なことの中でも社会参加は充分出来るのではないだろうか。

私の経験から言わせて頂くと、少し非日常的なことになるかも知れないが、病院への通院や入院も絶好の社会参加のチャンスになり得る。

医師、看護婦、理学療法士、etcのよくな医療従事者は世間一般の人達より、知識も豊富で、障害者に対する理解も深いと思われがちだが、それはかなり錯覚の部分が多いと、いい三、四年間で、すっかり病院との関わりが、多くなってしまった私は実感している。

勿論、すべての医療従事者がと言う訳では決してなく、それまでの障害者に接した経験の頻度や本人の人間性、さまざまな障害に関する認識や感覚に個人差はあり一概には言えない。

つまりはたとえ医療従事者であっても、一般人と何ら変わらず障害者に対して理解が深い人もいれば、そうでない人も大勢いると言つ事である。

だからこそ、医療機関へ行く時が私達の社会参加の機会なのである。

ただどこの医療機関でも「障害者」と書いて

も、中途障害やその他、言語障害や不随意運動のないような、つまり「脳性マヒ」以外の人は健常者と変わらない普通の対応をしてもらえるだろう。問題は全身に不随意運動と言語障害があり、一見「自己判断能力がない！」と見なされそうな、いわゆる「脳性マヒ」、それも身体的障害が重くなるに連れ、当事者である障害を持つた患者への対応の仕方が大人に対するものではなく、まるで子供へのものと同様になっている。特に一緒に付いて来たのがアテンダントさんなら、まだマシなだが、親や家族が同伴している場合必ずと言って良いほど、医師も看護婦もその他の医療従事者の大部分が患者本人ではなく、その付き添ってきた親や家族に症状など、色々なことを聞き、付き添つて來た方も、本人を通さず、直接聞かれたことに答えている。それ以後もずっと患者本人の頭の上で医師や看護婦と患者の親や家族との会話が続き、その間患者本人はそばでその会話を聞いているだけで「入院や検査、手術などをする」とになるけどイイですね」と、その場にいるにも関わらず、本人に向かつての説明を省き、事後承諾を取ると言う具合になるケースが多く多いようだ。

これは別にその間じや本人の判断能力の有無には全く無関係で、しかもたいていの場合、会

話が不可能なほど言語障害が思いと違う訳ではないことが非常に多い。

ではなぜかと言うと、先にも書いたように脳性マヒの特徴的な障害である不随意運動や少しうつくり聞けば充分解るのに「話し方がへんだ」と言うだけで「会話が出来ないだろう」と書いつ込みをされ、その結果自分の身体でりながら、自分は診断の結果も受けられず、治療方針などに關しても、自分の意見は尊重されず、結論だけを医師なり、親や家族から知らされ、納得せざるを得ない状況になってしまふ場合が多いと、知人からよく聞く。

これは医療従事者の偏見も大きな原因の一つだが、付き添つている親や家族が患者本人を「一人前の大人」だと思っていない。身体に障害があると言うだけで、その本人への認識が完全に流れてしまっているのだ。それにもまして患者本人が自分の病状について話し合われているのに、その場で自分の意見や希望を言わない。すべてを「任せ」にしてしまう。その診察室での会話に加わらなければ、「楽でいいわ」くらいの気持ちしか持つていなければ、これはもう周囲がどうこうの問題ではなく、自己責任の意識の有無が問われると思われる。

こう言う時こそ、最も自分自身に密接な社会参加をするべき場面なのではないか?

病院など医療機関は私たち障害者にとって、かなり身近な社会参加の場である。

ところがえてして、医師や看護婦など医療従事者の多くが普通、健常者の患者になら、「ごく当たり前に行うインフォームド・コンセント(病状の説明と治療方針への同意)を親や家族にだけしてしまう。本来、本人に行なうのが大原則であるにも関わらず・・・。

そして入院でもしようものなら、脳性マヒの患者への看護婦さん達の対応は「一ちらが自己主張しない限りは子供扱いされる場合がある。

私自身、昨年一年間の入院生活で合計三つの病院を回つたが、通院だけならまだしも入院するとなると、周りの状況を見ながら周囲の人達に自分の身体状況や精神状態、希望など自分と周囲に關わるすべてのことを自分で伝えたり、聞いたりしなければならない。「これは大変地味だけど、非常に大切な、もしかすると脳性マヒで言語障害のある人にとっては海外旅行へ行くことよりも、優先順位のたかい社会参加の方法かも知れない。

たとえばそう言う医療機関や自宅近辺の人々との関わり合いの中から「障害者、特に脳性マヒなどへの偏見をなくして行く」と自分が生活に一番ストレートに跳ね返つて来るような気

がするのだが…。いわゆる「心のバリアフリー」を本当に実現させる近道の努力なのではないだろうか。

自分自身の経験を基に「障害者の社会参加」について、稚拙な持論を述べさせて頂いたが、皆さんはどう思われるだろう?

2000年7月

## 視覚障害者の旅行 第2段

“北海道どこもいっしょやなかつたよ”

中山 美江

家族四人で死ぬまで一度は行つてみたかった北海道へ行つた。(ワインクは、今回お留守番)全盲の私が三日四泊の北海道旅行にこなしますね。

伊丹空港から飛行機へ…。

千歳には一時間三五分で、小雨の予報だったのが、私が着いた途端、やんだのよ。ひんやりした風が出迎え。「やっぱり北海道やね、気持ちいい」と感動。主人登場「ほつ北海道は違うのう」梅雨の関西とは全然違う風。まあ風で感動していくなんですか、レンタカーを借りるのでああ車へどうぞ、スタート。

初めはカーナビになれまでひと苦労だった

けど道が広く、車も少なかったので順調に走る。これから箱根牧場(北海道で箱根とはね)さすが景色は広々として畑の向こうも畑。家がボツンボツンと寂しい、「ここ」で住んだら不便やなあ」とか「土地が余つてる?」とか騒ぎながら牧場へ着いたよ。まずは食い氣でステーキハウスで牛を見ながら肉を食べる。(見えなかつたが)いっぱいになつたところで見学。入場料は無料でびっくり関西人としましては信じられない。入り口の白樺に触つて、花も触つて子牛にも触つてペロリなめられ、ワインクを思い出す。一通りの家畜さんたち、水牛や馬の向こうは牧草、ただひたすら牧草。サイロの隣には牧草をロールにして積んである。本当に北海道してるなあ…。ソフトクリームもなめだし、次は札幌へ行こう、のんびりした田園風景から都会の札幌。さすがに札幌へ近づくと車が増えてきて、町の中は渋滞です。主人登場「ここはどこもいつしょやなあ」私もそう思う。時計台に行きたいが見つからず、ひとまずホテルに行つて、一休み、一休み。十九階が部屋でながめはビルばかり。一服もなし、恋の札幌へお散歩。通りの多い中をブランコラリ。みつけた札幌の時計台、もっとロマンチックな空間の向こうに建つてほしかったな。時計台は触れないから見えるふりして見ておこう。農業学校の中



へ入つて見学。木造なので歩くたびギシリギシリ。百年前に戻ったような気分。あんまり触れないでつまらないと思っていたら、あつた私も楽しめるイヤホーン。世界の鐘の音が聞こえる。十三ヵ所の教会の鐘。メロディー神秘的ですぞ。時計台は午前六時の鐘の音が録音されていて一番平凡な音だつた。これだけでも見学したかいがあつたもんね。色々な資料が展示されてるそつだが、まあ見えてるふりしてみよう。ここから大通り公園へ行く。人がおおぜいで賑わつてた。私はチョコタント座つてどうもろこしを召し上がる。ハトが目の前まで来て私をウツトリ、いやとうもろこしにウツトリ。そこのからついでにテレビ塔へ行つたが三階まで登つたが主人が「ホテルの部屋の方が高い」私もそりやそりや、と思ったので展望台には行かずホテルへ帰る。夜はホテルの中では会席料理を食べる。おいしかったね。お腹もふくれたしもう寝ようかな。

オハヨウ。「一田田の朝ですよ。今日は小樽へ行くよ。早く車に乗って行こう。言い忘れたが運転はお姉ちゃんがしているのよ。もつと言ふのが私達夫婦と娘二人の旅行。この旅行はお姉ちゃんが連れて来てくれたんだ。しゃべつて間に車は小樽へ。漁港のせいかやたらにトラックが多い、やたらに騒がしいな、活気がある。運河を見て色々な匂いがする通りをウロウロしてから娘が「寒い所へ連れて行つたゲル」エーデニヤドニヤと連れられて行く。「銀の鎧グレープ」第四号館、流水凍れ館、体験「一ナ」。ここがよかつた。氷点下二〇度と氷点下四十度の体験。ジャンバーと軍手を貸してもらってイザ出陣。入るなりヒューと冷たい風。全て氷の世界。氷の中に錦蘭の花そしてラベンダーナなど氷の花園。氷の水族館、カニも魚も氷の中。マンモスの骨も氷ならベンチは氷で、座つてヒヤリ。ベットも氷でヒンヤリ。かまくらもあつて入つてみると秋田に来た気分でなまはげが出て来そうな。氷点下四十度の部屋はさすがにすぐ入つて「サムー」と言つてすぐ出た。どめは氷の滑り台。最初は下の娘がすべり、それから私がおそる、おそる、すべつて途中からピューンと下まで。後から上の娘が初めからピューン。実際に面白かった。入り口の所にマンモ

スの歯の中に手を入れるとマンモスの鳴き声が

する。外は暑くて体は冷たく本当に気持ちがいい、カキ氷になつたよ。すぐ隣三号館オル

ゴール館へ行く。「二階がオルゴールを販売。可愛いのがいっぱい、どれもこれも欲しくなるけど値段を見たらあきらめる。三階はおなじみ

“となりのトトロの森”でトトロ商品がこれまたいっぱい。触つたのは全ていいお値段で…。

外へ出てからトラブル発生。車のカギを入れたままパタン。営業所の人來ても開かずにJA

Fが來てもらつてもなかなか開かず三時間してからやっと開いた。見知らぬ人が「よかつたですね、お茶、ついでに買ったので差し入れ」と

言つて大きなペットボトルと紙コップ。気にして見てたらしい。本当に北国的人は粘り強いと

関心、そして優しい、目頭がジンと熱くなつた。

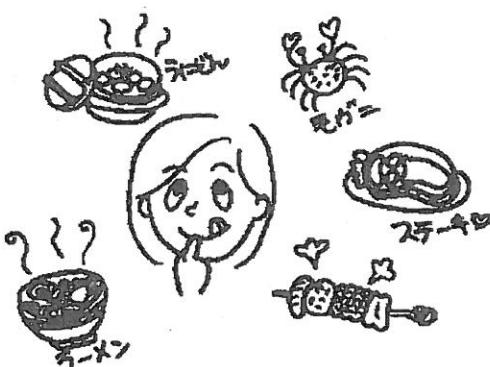
人のぬくもりに見送られ、一番の目的のウニ丼を食べに行く。ウニはヒーヒーハヤ、ヨダシが出

そうじゃあったウニのお店。ウニは甘くておいしかつた。ウニが多いのはいいが、こはんも多くて「もう何もいらん」とから石原裕次郎記念館まで十分足らずなので直行。裕次郎さんに会いに来たが、こは広いですぞ。ヒット曲を

聴きながら名場面を見る。

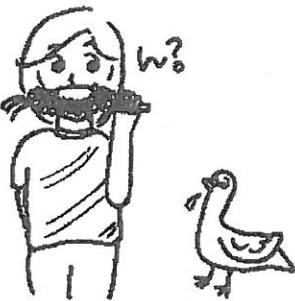
館内を下の娘の説明を聞きながら奥へ、奥へと行くうち足がだるくなつて来た。本当に広い

よ、我が家がいくつに入るんだろうと思つた。こは触れる物はないのでこのへんで…。さすがに疲れたなあ、ホテルへ行こう。



夜は小樽名物の寿司通りへ行つて、ぎり寿司をパクつく。甘いマグロやカニやイクラなど…。おいしくてどう言つてよいのやらなんのつて。家に帰つても当分、お寿司屋は行けないなあ。お刺身も食べたくないわ。なんせ北海道はウニとお寿司が目的だったからね。満足じや…。小樽からオハヨウ。三日目だよ。サア二これからオハヨウねですぞ。脚めぐりです。トネネルをいくつも通つて岩が落ちてきそう

な道をスイスイ。小樽市内や札幌を除くと車は  
スイスイ、気持ちいい。曇のため海は白く暮も  
かかってきて神秘的。途中キタキツネ発見、私  
と運転中の娘が見れずには残念。積丹岬を目指し  
たがわかりにくいのでカムイ岬に変更。国立公  
園の中にあるので鳥がいい声であちらこちらか  
らコーラス。ウグイスも瑞々しい声で鳴く。(い  
ろんな鳥が鳴いてたが私にはウグイスしかわか  
らなかつた) ここでまたキタキツネ発見、今度  
は親子連れ三人いや三四匹。これで見れなかつた  
のは私だけ。いいもんねウイークの方が可愛い  
もんネ。雨が降りそうなのでまた来た道を小樽  
へ戻る。小樽から札幌へ出てから札幌のラーメン  
ン横丁へ昼食は勿論札幌ラーメン。バター味の



や刺身や珍味色々。途中でお腹がいっぱいでお部食べられなかつた。牛になりたかつたよ。私の辞書には残すと言つのはないのだよ・・くやしいなあ。後ろ髪ひかれる思いでお土産を見に外へ散歩。町が硫黄のにおいと湯煙でいいもんでアリンス。大浴場にも入つたり出つたりしてすつかりいい女に・・いい夢みて寝ようつと・・。オヤスミ。

四たびオハヨウ。朝食は残さず食べて心おきなく、地獄谷と熊牧場へ行こう。まあ地獄谷は登別温泉の元で熱い熱気で上から除いていてもムーンとしてくるので早々クマちゃん見に行こう。ロープウェイへ山頂へ登るとクマ牧場。勿

は・・・? 鶴光バスや出店かいはいで観光ホ  
テルもある。まあいか。遠く湖水を見ると神  
秘的だそうだ。私はここで釣れるニジマスのお  
寿司を召し上がる。エツまた食べててるって声が  
聞こえそつですが、私は北海道へ食べに来たの  
よ。ほつといて・・。それからまた外でチヨコ  
タンと座つてどうもろこしを召し上がる。そこ

論クマがいる。アヒルのレースもやつていて一〇〇円出した。一等は白で私はダーメ。人才りがあって人間の方がオリに入つてるようでもクマが人を見学。クマ資料館の中は人とクマとの関わりとかクマのボスの紹介、一年ぐらいしかボスになれないそうな。クマが起こした事件は人とクマが共に暮らす難しさ。クマの冬よりもする穴を再現してあり、私は穴に入つて、ガオッとほえると娘が「違うお母さんは豚やんか」と抗議。私もすかさずブヒブヒ。まあ素直な?親だ?こと。。。」(二)はアイヌの人の住まいや民芸や毎日の暮らしをそのまま再現している。アイヌの暮らしには文字がなく音楽や語りで受け継がれて行く。アイヌの言葉も書かれていた。少し賢くなつてクマちゃんたちと別れる。さあ湖だそうでテレビのドラマにはなつたのでどんなところかな。静かなイメージで行つた湖は賑わつていた。。。ちょっと寂れていたのは。。観光バスや出店がいっぱいで観光ホ

でねとうもろこし売りのおばさんがね私を見て  
やけに同情してくれるので、「可哀想にねーこへ  
来ても湖見えないのにね本当に可哀想ね」だつ  
て。チョットといい感じしなかつた。私は私なり  
に楽しんでいるよ。とにかく時間がまだあるの  
でこの湖を違う所から見よう。静かな国立公園  
の野鳥の森を探索。奥へ布拉リ布拉リと歩いて  
いるといろんな鳥の声。白い蝶々が乱舞してク  
ローバの花中へ数えきれない。ある木にはいつ  
せいにきまつて蝶がたむろしている。森とはこ  
んな所だったんだなあ、エゾ松やアジサイの花  
それに、ツルアジサイなど初めての草木を触り  
まくった。アジサイは兩、特に梅雨に合う花だ  
から」との北海道では「よく花が小さい。触って  
アジサイとは思わなかつた。階段を先に上がつ  
た娘が「ワアきれい」と感動してたので上がつ  
て見ると遠くにそれも上の方に湖が緑の中に見  
えるそつた。私も見えるふりして「ホンマにき  
れいやね」私もペテン師や。。。」「で北海道  
を思い切り感じて、千歳空港へ向かう。レンタ  
カーを返してバスの中、「おじさんが見  
えなくても旅行出来るなんて幸せやなあ」とし  
みじみと言われた。この旅行での最後にふさわ  
しい言葉だったね。私もしみじみそう思うよ。  
千歳空港で早めの夜の食事はコーンカレー。最  
後まで無い氣の私。旅行中一度もお腹が空く」

となし、家に帰つても体重計には乗りたくない  
私です。本当に皆さんもお疲れ様でしたね。

最後の最後で主人が一言「北海道は違うのう、  
楽しかつたのう」

## ☆ーーセンターからのお願い

八月二十二日(水)は宝塚まつりです。障害  
者情報クラブーセンターも参加してバザーを  
出します。どうぞ買ひに来て下さいね。頑張つ  
ていますので顔を出して盛り上げて頂ければう  
れしいです。お待ちしております。阪神競馬場、  
バザー催しコーナーで十六:〇〇～十九:三〇

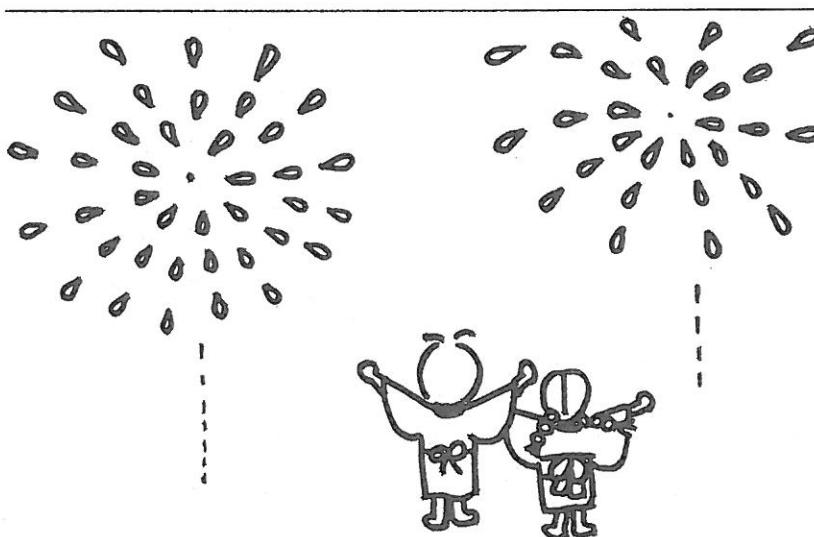
アテンダント(有料介助者)  
を募集しています

障害者が外出する時や家庭での介助してくれ  
るアテンダントが不足しております。アテンダ  
ントとは有料介助者です。(一時間九〇〇円)  
特に若い男性の方、大歓迎です。経験ある人  
もない人も一度ーーセンターへ連絡して下さい。

詳しくは面談の上で。

宝塚市平井一一一ハイツ一〇五

(電) 0797-822-2233  
(ファックスも同じ)





## ★街であそぼう!

(特別編)

「わらー」センターでは、ハンドブックの取材をしています。

### 宝塚ファミリー・ランド

場所 宝塚市栄町一一一五十七

電話・ファックス 0797-85-6210

料金 入場料 大人 1400円

子供700円 障害者700円

アトラクション料金は別途購入

(一イベンタ四〇〇円程度)

交通 電車 阪急・JR宝塚駅 下車すぐ

自動車 専用駐車場1回1000円あります。

☆ ファミリー・ランド ☆

場所 メルヘンガーデン内 滝の広場一帯  
(特設会場)

かわいいペットに特化した、ゲストと動物のふれあいパークの誕生です。  
ペットとして人気の高い犬をはじめ、ネコやモルモット、ハムスター、フェレットのほかミニチュアホース、アヒルなどのかわいいペットとふれあえる「ふれあいパーク」で楽しいひと時をお過ごしくださいね。

☆ 動物ふれあいパーク登場! ☆

から多くの方が来園されています。身障者用トイレ、スロープ、エレベーターが用意されていますので、障害者でも安心して利用できます。傷病発生時、緊急に対応できるよう「診療所」が設けてあります。ケガや具合の悪くなつた場合は、お近くのスタッフまたは案内所へ連絡すれば、遠やかに「診療所」へ案内してくれます。また、症状に応じて、近くの病院を案内してくれます。

## ★宝塚ファミリー・ランド見聞録★

私たちには今回、「このハンドブックの取材で宝塚ファミリー・ランドに行きました。

私にとっては、懐かしい小学校の遠足の時以来でした。朝は少し雨が降っていましたけれど後になるほどに良いお天気になつてきました。

まず、最初に動物園に行きました。私は、実は、動物は、ちょっと苦手な方ですが、初めて行ってみると、とても楽しかったです。立体動物園一階の阪急電鉄歴史記念館にも行きました。昔の実物の客車が展示されていましたが、車内の吊り手が今も昔も変わらないなあ、とつくづく思いました。「面白かったよー。」

(ハンドブック取材班)

期間 2001年1月1日(木)  
～2002年1月14日(祝)

## 通常総会

障害者情報クラブ二〇〇一年度の通常総会は、五月十九日(土)に宝塚市総合福祉センターで開催されました。

例年より障害者会員の出席者が多く、活気があつたように思いました。審議事項は、定例の事業と会計について、特別なものとしてはアテンダントシステムとの調整で会則の会費の項目を変更した程度です。人事も大きくは変わつていませんが、企画の主体をILセンターへ移行しました。

## 事務局より

寄付のお礼  
関西学院大学理学部1984年入学同窓会からのご寄付をいただきました。ありがとうございました。

発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市城東区東中浜二丁目十の十二 緑橋グリーンハイツ1F アド企画  
一九八四年八月二十日第三種郵便物認可 毎日発行 頒価百円

## 編集後記

先日の休みに一人でぶらっと出かけてきました。久々にゆったりと過ごせる時間だったんですが、道に迷ってしまい、目的地にもつけずじまいでした。でも、家に帰ってきても疲れてない自分に少しひっくりです。やっぱり息抜きは必要ですね。「自分の好きなことをした」、素敵な休日でした。

## 「障害者情報クラブニュース」第15号 2002年3月22日発行

編集者 障害者情報クラブ編集部 中道 望  
編集責任者 障害者情報クラブ事務局長 光森 千早  
所在地 〒665-0816

兵庫県宝塚市平井2丁目1番10号ハイツエフオーナー205号

障害者情報クラブ事務局

障害者情報クラブILセンターTEL&FAX 0797-82-2233

e-mail:@ sjcil@anet.ne.jp

郵便振替 記号14360 番号43110611障害者情報クラブ

銀行口座 さくら銀行逆瀬川支店普通預金 3566211 障害者情報クラブ代表坂上正司

AZUR ブル・ル・シエル  
AJURELLE

高級賃貸マンション（郊外の緑に囲まれた抜群のロケーションと住環境）

JR宝塚線（福知山線）中山寺駅から徒歩7～9分（大阪・北新地へ快速利用で30分前後）

アジュール宝塚：4LDK (106.1m<sup>2</sup>) ル・シエル宝塚：3LDK (67.13～69.30 m<sup>2</sup>)

RC造 駐車場併設（屋内・屋外）トランクルーム併設（アジュールのみ）

本体設備：エレベータ（アジュールのみ）自転車置場（屋内）防犯カメラ

各戸設備：3ヶ所給湯 各部屋に収納 和室に箪笥置場 テレビモニタ付きドアホン

ケーブルテレビ（地上波、BS、CS、インターネット）、有線放送（アジュールのみ）

<http://www.butaman.ne.jp/~sakaue/work/>

お問い合わせ 服部ハウジング鶴巣中支店 (06-4865-1511・担当岡澤)